

「すぐやる人」と「やらない人」の習慣という本からです

すぐやる人は枠外へどんどん飛び出し、やれない人はムダを嫌う。

2005 年 6 月 12 日、スタンフォード大学卒業式。アップルの創業者故スティーブ・ジョブズが、卒業生にスピーチを送りました。皆さんの中にも、このスピーチを見たことがある人は多いのではないのでしょうか？様々なエピソードが出てきますが、中でも印象的なのは、ジョブズが大学を中退して何をしたかという話です。ジョブズは大学に入学したものの、大学とは親が数十年かかって貯めた金額以上の価値のあるものなのかと疑問を持ち、自問自答を始め、ついには退学を決意しました。大学を中退して自分の好きな書道を学び始めたのです。「そんなものを学んで何に繋がるの?」「無駄なことに取り組んでいる時間なんてないよ」といった声が聞こえてきそうです。しかし結果として、ジョブズが書道を学んだことがアップルの美しいフォントを生み出すことに繋がったのです。「過去を振り返ったときにその経験したドットを繋ぐとあなたの人生が作られる」「コネクティングドット」という言葉で知られていますが、何気ない点と点が繋がる瞬間があります。

私が海外に飛び出した理由のひとつも、ここにあったような気がします。大学 3 年生のとき、周りからは就職活動という言葉が頻繁に飛び交うようになっていました。そのときふと疑問に感じたのが、大学を卒業したら就職しなければいけないのか、といったものでした。どういうわけか、中学校を卒業したら、高校に進学して、そしていい大学に入学をして、いい会社に入れば生活が安定するといった風潮があって、本当にそれしか選択肢はないのかと感じたのです。自分のやりたいことをではなくて、そういうものだからといった、どこか他人任せのように感じてしまったわけです。だから海外に飛び出してみても、世界とは本当にそういうものなのかを確認してみたくなったのです。ケンブリッジへ留学して良かったことは、多様なバックグラウンドとそこから生まれる異なる価値観や考え方をを持ったクラスメイトと出会い、かつ幅広い意見交換ができたことです。年齢層もバラバラです。日本とは大きく違って、学びたい人が集まってくるところが大学。年齢も国籍も何も関係ありません。授業外にランチや食事にも積極的に出かけ、彼らがどのようなことを考え、どういう未来を描いているのかを聞いた瞬間に世界の広さを知りました。

違うことは、素晴らしいことなのです。だから今でも最低でも週 1 回は必ず、様々な人と会う時間を確保しています。異なる業界で働く人や、異なる関心を持っている人、異なる環境で育った人と、年齢やバックグラウンドの垣根を越えて積極的に話をしてみると、思わぬ発見があったり、新たな興味が芽生えたりすることもあるでしょう。日頃、凝り固まった価値観を壊し、ワクワク心が躍るようなものに出会ったら、あなたは気づかぬうちに「すぐやる人」になっていることと思います。目の前の仕事が忙しくなるとついつい没頭しがちですが、どれほど忙しくても必ず定期的に時間を確保してみてもどうでしょうか？人は人から大きな影響を受けます。特に、日本人は平均や偏差値といった他人と比べる教育環境で育ってきていることから、他人と自分との差を比べる習慣がついています。それほど他人に対して敏感であるセンサーなら、それを自分の成長のために活用しましょう。「やれない人」はムダのように感じるものを徹底的に嫌いますが、それでは点は生まれません。点と点を繋げて線にするためには、まず点を作っていかなければなりません。そのためのひとつの方法が様々な生き方に触れることだと思うのです。

過去を振り返ったときにその経験したドットを繋ぐとあなたの人生が作られることを何と言いますか？

()